

表-7.1.1(2) 重要な植物種の移植方法の検討結果 (その3)

種名	確認箇所		繁殖様式		生育環境	移植方法					現況及び移植地の環境状況		移植による 攪乱などの影響		
	障害灯の 改変部	空港施設 予定地	生活 様式等	孢子又は 花粉の 移動様式		採取・ 繁殖方法	播種、移植 等の事例の 有無	使用機材	運搬方法	手法	実験	移植株数		移植地の環境状況 及び配慮事項	
ヒジハリキ (アネ科)	●	●	木本類 (低木～ 中木)	動物糞 風媒	重力散布 動物散布	低地林内 なお、非 改変部で ある葦川 南側のハ マイスピ ーコンク ロング群 落内にお いても平 成8年に 生育が確 認されて いる。	低木(1m以下)は 掘取り(余分な枝 や幹は切り落 す) 中木(1～3m)は根 回し後掘取り(余 分な枝や幹は切り 落とす) 挿し木	実例無し。 実例無し。	スコップ、クワ等 による掘り。人 力作業。	根鉢を新聞 紙、藁等で包 み、人力ある いは機械で 搬出。	植穴に植え込 み水種め(根 鉢と現地盤の 隙間をなくす) 後、乾燥防止 にマルチン グ、根動きや 倒木を防ぐた め支柱設置。 なお、挿し木 及び種子採取 による栽培・移 植については 株移植を補充 する目的で、 必要に応じて 行うものとし る。	実例がない ため実 験が必要	空港施設予定地であるゴルフ 場内のオオバギゲッキツ群落 に78株。 航空障害灯予定地であるカ ツタ山のオオバギゲッキツ群 落内に1株。	本種は低地林内に生育する高さ1～4mの常緑低木であ る。 空港施設予定地の株は、近隣の類似環境であるオオバギ ゲッキツ群落に移植する。移植地と同一種生のオオバギ ゲッキツ群落の植生調査結果は、低木層(3～5m)の植被率 は20～90%、草本層(1～1.6m)の植被率は20～80%とな っており、低木層と草本層の植被率が高くなっている所があ る。移植地のオオバギゲッキツ群落も同様であると考えられ るが、本種は生長しても1～4m程度であること、また、植被率 が低い所を選び、密植を避けることにより移植スペースは確 保できると考える。移植地は現況で生育が確認された植生と 同じであり、スペースも確保できることから、生育環境として 適していると考えられる。 航空障害灯予定地については可能な限り改変を避けるも のとするが、やむを得ない場合は直近に移植する。移植地 はオオバギゲッキツ群落である。移植地と同一種生である オオバギゲッキツ群落の植生調査結果は低木層(3～5m) の植被率は20～90%、草本層(1～1.6m)の植被率は20～ 80%となっている。移植地のオオバギゲッキツ群落も同様 であると考えられるが、移植株は少なく、生長しても1～4m程 度であること、また、植被率が低い所を選ぶことにより移植ス ペースは確保できると考える。直近に移植することから、土 壌条件などは現況とほぼ同一であり、生育環境として適して いると考える。	空港施設予定地 の株については、 距離が近いことと繁 殖様式から攪乱な どの影響はないも のと考える。 航空障害灯予定 地については、や むを得ない場合は 直近に移植する。 直近に移植するこ とから攪乱などの影 響はないものと考え る。
イシガキカラスウリ (ウリ科)	●		藤本類 つる性	動物糞 風媒	重力散布 動物散布	林内、林 縁	種子採種(春～ 秋) 掘取り	実例無し。 同属のカラスウ リ、ケカスウリ などで栽培 実例あり。 実例無し。 同属のカラスウ リ、ケカスウリ などで栽培 実例あり。	直播き、またはプランター等で 育苗後に定植。 掘り へら スコップ等	根茎を新聞 紙等で包み、 土嚢袋等で 搬出。	植穴に植え込 み水を与え、 乾燥及び流亡 を防ぐため枯 葉等でマルチ ング 改変前に改変 区域内の株か ら種子採取。	実例がない ため実 験が必要、 カラスウリ 等の事例 を参考に する。	空港施設予定地であるゴルフ 場内のオオバギゲッキツ群落の 林縁部に2株。	本種はやや開けた山地林道沿い等に生育する常緑のつ る性多年草である。 空港施設予定地の株は、近隣のゴルフ場内残地のオオバ ギゲッキツ群落林縁部へ移植する。 本種は林道沿い等の開けた環境を好み、つる性多年草で 他物に巻き付いて生育することから、林縁での移植スペース の確保は容易であること、オオバギゲッキツ群落は生育を 確認した群落と同一であることから、生育環境として適して いると考える。	改変区域内で採 取した種子を生 育させた後、近 隣のゴルフ場 内残地のオオ バギゲッキツ群 落林縁部へ移 植する。移植地 は2箇所ある。 距離が近いこ とと繁殖様式 から攪乱などの影 響はないものと 考える。
タイワンアシカキ (イネ科)	●		草本類 地上性・ 多年草	風媒	重力散布 動物散布	湿地	掘取り 株分け(根茎の分 割) 種子採種(夏～ 秋)	実例無し。 実例無し。 同属のアシカ キは実例有 り。 実例無し。	スコップなどによる 掘り。人力作 業。 掘り後、はさ み、ナイフ等で株 分けし、茎切片を 植え込み、育苗 後に定植。 プランター等で育苗後に定植。	周囲の土及 び水と共に容 器に入れて 搬出	植穴に植え込 み	実例がない ため実 験が必要	空港施設予定地であるゴルフ 場内の池周辺等の湿地草本植 生(休耕田湿地、低草草本)や水 田脇に多数生育。植生調査結 果を踏まえ、生育状態の良い20 株程度を、工事2年次、5年次に それぞれ選定する。	本種は通常水中または水辺に生育する多年生草本であ る。 適切な移植地が事業実施区域周辺の公有地等には存在 しないことから、空港施設北側のボックスカルバート下流に ビオトープ(池)を創出し、そこへ移植を行う。類似環境を創 出することから、生育には適していると考えられるが、移植後は 池の水位や水質なども含めた慎重な管理が必要である。	ビオトープ(池)内 で管理すること から攪乱などの影 響はないものと 考える。